

一般質問

体育施設のトレーニング機器の整備・充実を！

(リベラル西条)

問

ビバ・スポルティアSA IJOに最新のトレーニング機器が導入されたが、市内の体育施設のうち、機器の老朽化が進む施設については、今後どう整備していくのか。

また、機器に応じて、適切なトレーニング方法のもと使用することで効果が現れる。トレーニング方法を熟知した専用トレーナーを設置してはどうか。

さらに、2017年開催の「えひめ国体」に向けた体育施設の整備・改善について、どう取り組むのか。

答

体育施設のトレーニング機器は、平成20年度から整備方針に基づいて西条市屋内運動場ビバ・スポルティアSA IJO及び総合体育館は、競技力向上を目的としたアスリートにも対応できる機器を整備する。東予体育館、ひうち体育館は、主に健康増進、体力増進を目的

とした一般向けの機器を整備する。

また、トレーナーの設置については、合宿都市構想の推進やアスリートの競技力の向上という観点から一つの課題であると認識している。現在、西条市合宿都市構想策定委員会のワーキンググループにおいて、トレーナーの設置が提案されており、今後とも問題意識を持って検討して参りたい。

さらに、2017年開催の「えひめ国体」に対応した施設は、開催2年前までに完成することになっている。愛媛県では、本年1月に会場予定施設の概況調査や建設年度、規模、駐車場などの現況調査を実施した。この調査



トレーニング室(ビバ・スポルティアSA IJO)

を踏まえ、今後、必要な施設の整備及び改修方針を受けて計画的に整備を進めていきたい。

どう取り組むのか！

環境対策

(無会派)

問

地球温暖化問題の温室ガス削減への数値が示される中で、市民の協力を得ずしての取り組みは不可能である。市が方針や数値目標を示すなど、具体策をもって取り組むべきではないか。

また、低炭素社会へ移行するためには、太陽光発電は有効な手段の一つである。こうした中国の支援に併せて地方自治体の支援も進んでおり、現在、西条市においても、1キロワット当たり1万円の助成を行っている。さらなる助成の取り組みと、太陽光発電の導入・促進に対する今後の具体策について、どう考えているか。

答

平成17年6月に行った環境に関するアンケート調査では、一般市民の74・9パーセント、中学生の66パーセントが地球温暖化を深刻な問題とと

らえている。

しかし、この問題に対する市民の関心は高いものの、具体的な行動に結び付いていないのが現状である。CO2削減のためには、省エネルギー対策や新エネルギーの導入、低炭素社会の構築など総合的に取り組んでいく必要がある。

低炭素社会の構築については、株式会社西条産業情報支援センターが応募していた経済産業省の「平成20年度低炭素社会に向けた技術シーズ発掘社会システム実証モデル」が採用され、低炭素型地産地消のモデル都市の構築に向けて、その成果が期待される所である。

家庭での取り組みとしては、電気使用量や化石燃料使用量、廃棄物排出量を削減することによってCO2を削減することが可能となる。

具体的な方法として、電気使用量の削減では、待機電力の削減、省エネルギー機器の購入、エアコンなど機器の設定温度の適正化、また、化石燃料使用量の削減では、エコドライブの推進、太陽光発電などの新エネルギー利用の啓発、ペレットストーブやまきストーブの利用、さ



地球温暖化対策への取り組み行動マニュアルなどに基づき、環境対策を促進

らに、廃棄物使用量の削減では、家庭ごみの分別、エコバッグの利用、廃食油リサイクルなどが挙げられる。

どの方法も市民一人ひとりの環境意識の高さがポイントになり、これらの対策の推進に当たっては、具体的な削減数値を各家庭で把握できる環境家計簿の推進を図ってきたい。

なお、数値目標を市単位という狭い地域で示すことは非常に難しい問題で、法律で定められている温暖化対策地域推進計画策定においても数値目標の設定は求められてはいないが、数値目標は国全体で定めたものについて各家庭、市民及び事業者でCO2の削減に向けて取り組んでいく必要があると考えている。